



八代傳九輯
下校下
藤本
六

百五十四回
百六十一回

曾
600
7/95



特
門 僧 4
號 600
卷 75

八犬士傳九輯下帙之下乙號中套愚評

行 止



此愚評をいぬぞやこはしつとよりきりみどく
 又くもやうホーとて又るのせんせんぞん
 ちとやしくはあつて今やちやうとてとやう
 らんよいせんとぞやとゆふお行よ畧評ととるん
 こつとにまづあつてまはまはまはまはまは
 しふまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 こつとにまづあつてまはまはまはまはまは
 めとちやうよとてとととととととととととと
 まはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 まはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

5

5

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. There are some faint red markings at the top of the page, possibly remnants of a title or rubric.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The text appears to be a continuation of the previous page or a separate entry.

まいてつとくはくはあゝまゝしるをいふけんこつのみあんろ
とふよまをそくたるは一笑よそああるまごぢれ
をよりやひがことまをろくろくまもあづいこと
ろが五十ほ百ほごろくもあはくのみごぢり
ち何くそとそやめてたままろくのどつんちんあ
さきをぞせめてあええよとまがいそまごさいふ
さしめそろすそんらんめく

竹篠齋

庚子九月十一日夜燈下

著作堂老先生

玉案下

八犬傳九輯下帙之下乙號中套畧評
百五十四回

○五子城は會兵の諸將中長尾景春は出陣の
つがあれごとごと中途までまうていまうつとる
ふらしく稲戸津衛八犬川太田のいぜんのおまある
あづべくとあそちこふよ行徳よむふおびそのお
定のせやういふあんだらぬゆゆど此軍は津衛と
熊大刀自の代はあやめてのあそとせらまん
とそつとふづあそちこみ感じて成氏のあづめ
おるる如くあぬといまうあまうあつあつあ

奥よ在村が狭いづんよ又あざむらるの愚とまづ
うらうら書ておらるる例のうらうら○軍議よ西
おのころ下もおのづからして又今浦風あつき日まれ
ぢう幸よして吹るあつても風かちうてみまを焼
りむとあやぶと論びるこれ風外道人をひまをかん
とん凡かたづバのあやぶとえんてはるゆいかえれと曹操
が冬に東南の風吹るをきとておのちをうらうらありあつ
ざると對してこれと見えつらのつら大石寛重が
三國の時とまこと火攻の事といひかゝることありこの火攻を
さぶさちう又かあつてもえらるるまうとてまづあやう

まうけさせたまはらうといひ奇奴とまめうのんし
○江を渡してこと三國志のおいみのこと葉こべ
と初ひて昏るあづふといふとまづあやうあんど
江門ふど昏くごとく大入はれはとこころと
いふよとまといえようといあり○葉渡よあて浦人よ
遠近を向ふとて貴ト者うらぬその貴ト者と
して百中の犬村のおいこもちらんぬ百中のさう
かういふとあまうよとあうまういふとあ
まやうよとあまのさうとあまのさう犬村まうと大と
しつんおまをうらうたまうとあまのさうの昏まうとあ

お輯の末よあつはよこそをみねやこそめたるもなかり
あり將此回の末よつえおそめこそいふべきまよつあつ
まよバ文段中よ凡外ハ大に百中の大村ことことなり
て昏るるをそくよつちとつえおよまうまよつあつ
まよバまよつあつよつちハえようそれとつえお
しるちり又賣トを声言やうよよぶらちる領主こ
こまよちぬ官領の馬あちりまよいふちやうまよまよ
おもるるまよちぬおよ馬のまよえよりけんちりまよ
かふるまよちぬまよつあつまよるまよちりまよ
あふるまよちハ其まよ人まよつちとまよまよあつし又まよ

のまよまよち賣トのまよまよちハかへつちまよ松
下まよちあつまよち將まよちのまよちまよちと大村が
の如くして敵をまよるまよちまよちと日あひのまよち
まよバ五十子の城中へ入つちまよせんよまよトのまよ
まよちまよち何ともまよちのつちまよちまよちまよち
まよ日あひのまよちまよちまよちまよちまよ官領が海路
のまよちまよちまよちまよちまよちまよちまよち
その軍の吉祥とつちまよちまよちまよち凡外まよち
まよちまよちまよちまよちまよちまよちまよちまよち
まよちまよちまよちまよちまよちまよちまよちまよち

どれ後のさらさらをひいふとぬと大坂がぬるふよるこ
びいひくしつゆいゆきまきまきまきまきまきまきまきまき
てのんんこかく昏てあふさつんんんんんんんんんんんんんん
るのやうぢんぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
昏うんまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
のまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
てのぬぬとやうとてに奇ぬしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
かまかまかまかまかまかまかまかまかまかまかまかまかまかま
二十のうゝ義威が言とてたのうゝたのうゝたのうゝたのうゝたの
まあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢ

だつらうしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
一後輯のくえんしつゆいゆきまきまきまきまきまきまきまき
筆ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
異俗があて風をおうて歌をたさくまきまきまきまきまきまき
ぬ枝狸のさいらひめまきまきまきまきまきまきまきまきまき
てあふさつんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん
みまきとまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
いづれまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

そのいお輯よ一らんいおませ犬村よ二らんやてあひ
くりらうごぬかむびらうしてあましんしあひん

○ごころのうらハセこあまうりはや一まきて二大太
角やうころまきてこまてよ一てんやうんこよおと
それ七まぬぞれとら果傍めあや一まはるを昏る
文面のひろのぞくぐ又何れせよぬだよ二邪と
たまくるの妖傍やぬバそのまおほのそくを昏
と一あらんらとくぐとておくらくうらふくて
よまやうづ一○凡外かづらうてさく申さき
てさくかのま輯よまよまづらふとおゆる一ふ

るよおまきころやうごあひまはすしてさくこをん
らうあひげんし○ふんおのらうにま輯よあひまは
らうまに婦幼とくもくろてんぬま玉のまわのま
より像えんの詩のんは周郎のまぶとあひんて
後修火やあふよの入用あひんうとらうてさく
まてそのまの評はかりんあひんがまあひん
ま一してんてやあひんかむあひんてあひん
うぐらうんてんてんてんてんてんてんてんてん
あ用き巧つんてんてん○キ一うらうてんてん
う○さくさくさくさくさくさくさくさくさく

石よさきうらむつしよらうしむくしんめいしんしんめ
ちんぎのしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
重臣等好むしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
めいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
○凡外よいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
よらうべしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
うがすしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
よ功あつたむくしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
とらましんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
しんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ

垢紙まじりまよーだんがらふよーとらましんめいしんめ
るちんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
よらうべしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
らうべしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
まごもつらうとらましんめいしんめいしんめいしんめ
黒い氣をらふよらうべしんめいしんめいしんめいしんめ
祝しんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
めいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ
まろし他作あつたむくしんめいしんめいしんめいしんめ
まらうべしんめいしんめいしんめいしんめいしんめいしんめ

志とおもひらくいふとてありようんせむいぬんか
大じんろんのまぎとて大戦がとまぬめ一に幕中
犬士里見よ入りの智勇の花を一度よ十分た
まいたてゝやてゝんかゝるのばやむまらぬやんぬへ
まじりてゝいぬんかたて定正のくうくんとてかゝる
ちやんとあそびがたひがむる義成にぬいふかゝる
犬士はうけてあめへえとてまじりぬいぬいへ
ざりてゝいぬんかたてゝかゝるまら勝のむぬい
ちやくせんいう又定正のむらむ成氏にちやくんぬい
うぞあぬぐもてゝやとてゝるおとにまきよにぬいぬ

どそふとゝるゝんぬいぬい甲のぬいぬいぬいぬい
あそびてゝまてそふとて今うらんとてゝあそびて
ゆくとゆくとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おもふまに三國演義といへばゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちやあはらうやんとてゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
だまのなぬらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
それぞるへ一はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひは有種なごらぬたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よいつまらほろの勝とてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かごさしおのりやんさてその千代丸やんひいて
堀内父子はどしどしぜんきと負任があぬゆえ負行
より信乃伯五人はまきのやせしきとくちりふり
たのみかふるぬいまいにぬこあひふも野はみ
るす今まてとくひてさるるそのやくのぬりんと
えさるすまことよふらびあひむくかきとさめりん
ことらうし、○千代丸まよぢのまかせんと義成も
作よめいさごと毛弄まると今人義兄弟とひひん
くらあひさむひふらあむらといとんら千代丸のるし略
いひあひらる信乃伯の五人こととれらよ義成と

ぢんぢてさるばいまし信乃伯と狼ぢんとて二兩人か
こよいりていひさうあむらとさるらとあむらよもあま
めいよく信乃伯のことよあむらぬいぬらとさうあむらぬ
あれどあむらまのよとあむらぬせまきま五犬まづ両家老
よぶんふしといひあむらと狼ぢとあむらとあむらと
あむらぬそいといひあむらまづえふらとあむらと
二老五犬にあといひあむらとさうぢよあむらぬいせぢ
しよあむらまふらと義成とらとあむらぬいせぢ
さも野とまらていとさうらとあむらとあむらぬいせぢ
らハむらとあむらぬいせぢのぐんぢよあむらぬいせぢ

○敵の船とやうきよし一ゆらにちかたせぬまじく
するを一狩又火をうつらうらうきこきいぢやう
ふとらぶ義成がきこしきさく如くひらせうの用ん
せみみつにわれとことあひのこあざこめつくせ
とらう周郎とがいせうぬと感服狩やまぐあひの
ぬこあらん次孫とせうよゆきくこそ○孝副の
かす有種のる親まがするといひづる親まがする
はるけぬと孝副有種らがるまでハ今世たよめ
ことぐまよハせんとあひぬらふにちよひぬらふと
狩み人ばきよあづに大士らがるよとせいのゆきこ

よ孝副ハ毛群がふるまところ何よつけてせうまよ
あづ一今大たむいよのぞむとらうやうと將ま
ふそくハなれど狩用とら人のしまほしく又つぬ
ハ世時よあづあひの〜當家よまこ〜のひらぬ
んとおもふやうえんゆ〜のぞよ〜まじあひとらん
親まがするハ狩さく〜のぬ〜と〜いひづる義成
又ちや〜ゆんとさ〜いひふ〜あぐ〜と〜君臣とよ
まじあつく〜と〜か〜と〜あ〜と〜ま〜あ〜ん
と〜あ〜と〜ら〜に〜又〜と〜ら〜よ〜あ〜ら〜ぬ
と〜あ〜と〜孝副〜と〜あ〜と〜あ〜よ〜あ〜の〜あ〜と〜あ〜

大角あつてはむべくぞたまだもそおの郎ゆつて
とる中がうらあひとぞせんよいつてあゆまなふれ
佐一おんがさかづとかくてあぶとたぶのうわぶと敵
地よりうたぞうらうてするとさるにむづかしく
とらちむとばあむびの大角いふもまらと大役ぢう
現ハグつし猫のふらふらこ、諸兄おのめよふおめ
まじくいふむらうとらうとらんとたまらの役めの戸田
川の夜水のふぢれとお輯まらせんこゝろんこゝろ
おまらこのまらこごよまらおハはらこゝろわくの智
のこよあつて花こゝろまらこゝろあひらんこゝろ

又よとあつがめ取ハこらうてあま入ふぬ赤高郷中
の父老子弟とらぬとまづハまんいあづー狂いと
大役まりら毛野うくたぬとらうちとバヤとら智玉と
かこぢらところなが有てつらたらこやこまらあひらんこゝろ
毛野ハ軍師こゝろめとらうてゆはらうとこもよとらうて
るよとあまこほらまらが役まらうらぬらとらうもら
づとらけとさうせーとらうらうらんやまらとらや
とらぬく武官の花とらあらんとやた改らんとら
いよくわらとらこらんせらぬらうとらあらんこゝろ
吾らがーたつてらまらぬらうらぬらうらぬらうら

信乃がさしやうにたてらるるまじい事とて本づくは
しめさるるよつりてに御前が役なむと
よめほつごとなむがまにいひあはすは
ほつご役よまをりしはるふ文ちがまらあは後
はよつらむにゆるむるにゆふにゆるむ
たづみやうなるるにゆるむにゆるむ
の氣をよろよろのゆるむにゆるむにゆるむ
とるる○滝田よひに信乃小文吾もふ又いふに
おゆるるにあつてみりてゆるむにゆるむにゆるむ
よそ有べきにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ

のあしきこところもあつらんころもあつらん
二大士まづ登城して先候のきげんとくろふも
らんゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
らゆるむにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
るよめのことわりしるるにゆるむにゆるむにゆるむ
らぬ道にゆるむにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
くよめにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
まゐのゆるむにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
とよめにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
まゐのゆるむにゆるむにゆるむにゆるむにゆるむ
きハ筆あるる○義二夫が大よりふこと

右老後のんごころあるちづのせうに老後あれども
ニ犬をして大いとしのむらうのあきせうとていかに
あまうはたかして何とすらなくよおそきこにた
その中にあはれんばくひなりぬるあいのれづんあは
しにいぬまで文面はちかぢいとなほすにらぬい
つづきいふも有あれは筆をとるぶらして
あいのせうその文はあはんとおひいやくるおま
らういづくのむらうあはくひして将れとてうにニ犬士
たぢく文面はあはれんばくひのむらうのいけん
るあはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらう

ぬおよあはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらう
くいとちかぢいあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ
あはれんばくひのむらうあはれんばくひのむらうあはれんばくひ

君をんとおひ孫をむしそのまをさくおひさうて
るゆめをいとおぼしむにさかたはむい女を又いひしるま
しむかちちるいこいさかたはむいさかたはむい
くまのつれいむい大よこまかたはむい代に命がたむかたはむい
らいつれむいおぼしむいおぼしむいさかたはむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
大用あらぬおぼしむいおぼしむいおぼしむい
まづよいあつらひ二な目のつらぬおぼしむいおぼしむい
合よく又かたはむい二かたはむい二かたはむいおぼしむい

まもむかたはむいあつらひ二かたはむいおぼしむい
あんどひつよしめりおぼしむいあつらひ二かたはむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
あんどひつよしめりおぼしむいあつらひ二かたはむい
有種おぼしむい大よこまかたはむい代に命がたむかたはむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい
おぼしむいおぼしむいおぼしむいおぼしむい

まじくおゆるすなうらんて 堀内ノ女子ハもなまぬらさくすなむと
のみおまねはなうらんて 今もなきにせんとの今もなきにせんて
かんだおめへいあありこれ又文のくまら申さるざり
うよらけていよへ實状○道前現ハが本をよもち
やうと貞住ガかりの本をよもうらぶらふとけふしよ
かちろんいせちちもしてけあいせちちしよとけふしよとけふしよ
○道前ガそめいざうらぶらふとけふしよとけふしよとけふしよ
るに大よおやうらうききもんハ毛羽おれ今よてるのたまふる
は人づことぎよせんしよれど 信乃小文書ハ滝田よ
うらうらふとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよ

あはれいよもあひよ道前現ハ宿なるかきう
居るほどは女と堀河の家よきうらぶらふしよとけふしよ
そいよめいよちよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよ
らまらわらひおめとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよ
わよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよと
わとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよと
はとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよと
そいよめいよちよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよ
けんよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよ
うらうらふとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよとけふしよ

おもしろい話や ○家後のもまらぬことども
さういふことにて貞任とよき次の間はとあるを
して主客のめんどう大なるまじまじいよめる
道理もあらんけいこいあづらうあうてあつたれど
ふめんどうをまうてなれど道理も貞任とよき
よ次の間をまきあはれ今おむろよ入るよきと
又あつたよかくとをたのよきとまうてま
るのつづといふまうておいてお道理の女の系め
さういふことおむろ二思とあづらぶんまじい系
も今まうたうまうてもおむろよこらうてあつた
い

○貞任がむいけのよきおよき成の言よいあつたよ用
ありてとどらうよきよきよき用のくまうまうてまう
貞任がぬまめをえありもあらんくまんのまうてま
まうてまうてまうてまうてまうてまうてまうてま
貞任おむいけのよきおむろそのお花とまうてま
くまうてまうてまうてまうてまうてまうてま
かの三城主をまうてまうてまうてまうてまうてま
まうてまうてまうてまうてまうてまうてま
るよき代たはまのめいたげまうてまうてま
まうてまうてまうてまうてまうてまうてま

りまづいづれはのちの事なるべしと申す事ありていづれ
ぬやいと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
やと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
代に主と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
やいと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
よと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
ちの事なるべしと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
一申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり

らぬ事あるべしと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
うがと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
住まらぬ事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
城さうぶと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
くと申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
では別室と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
と申す事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり
二見の事ありていづれはのちの事なるべしと申す事あり

ありてはよくしむとくすむらひのたまふがなる
むらふももちて有らるるなり ○ 貞行が貞任より千代
丸のりよと葉の郎よとあしけいしまりあづる人ぢんば
いよくとあしむもせまきまらよつとあづる一とあしむまぢ
どもちらんよとあしよ大士よとらんよとたく又あぢよ
貞任のらんよとあまらぶまぢあぢあぢあぢよとらんよ
くあしあぢのづる老候の隠よはうけうとらんよあぢよ
し又らんあぢよふかくあぢよも貞行もあぢよよつと
あぢよは有らるるよとあぢよよまらよとらんよ大士のち
よひうてちりぶよあぢよとらんよの如くあぢよにつのめ

ふくまて有るよし ○ 千代丸が人ごとくも有べし
むらふもちよとあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
くよとあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
こそよとあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
あぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
あんでてらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
よせうとらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
半まぢとあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
よも有るよとあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ
あぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよあぢよのらんよ

たーまにぶくろいむのふもあぢで毛世ゆしるまかひの
やうしたふにばよとせとせう世今よ又一ろんいんあま
くまゆあまの道きかたがあまの理ハ世今よまに
うぶまふいんい道取らうむいんあまのたしー
がんとせがーばくくしうしてあ人のふんあまの
てにあまのせいで世今よにせのふんあまの
かふにふのせいふいんいこれまもせうのふんあまの
ほいよふあまのせいふいんいみかたのふいんあまの
うふんあまのせいふいんい道取らうむいんあまの
らんとかーあまのせいふいんいふいんあまのふいんあまの

ぶきをせういそでい五人がけんーせんーまをせうい
つらなるいのせんまふんあまのせがーせーくー
せうりうごうぬいんせいせうのふいんあまの
せういんいんいんいんいんいんいんいんいんいんいん
ひとみあまの明この智玉をひんあまのたしうり
あまのいんいんいんいんいんいんいんいんいんいんいん
つふの明智といふべー堀内父子つふいんいんいんいん
あまのふいんいんいんいんいんいんいんいんいんいんいん
ふくのふいんいんいんいんいんいんいんいんいんいんいん
きりんふくふいんいんいんいんいんいんいんいんいんいんいん

この平話のうらぶらむをそのまゝとせんぞと人々
もやうとてローぢんども言ふべしよんか
かこよとて言のうらぶらむ平話中實話の筆
ばしよまぬ文句あるにせんぞとてあつちあつち
らむすれぬのたにぬいぬいその平話とていふ
本うらぶらむとて言ふべしよんか
めうらぶらむとて言ふべしよんか
花あゆみははらふ中がぬいぬい
るにあらぬとて言ふべしよんか
めいそくぬいぬいとて言ふべしよんか

合場のぬいぬいとて言ふべしよんか
ぬいぬいとて言ふべしよんか
とあらぬとて言ふべしよんか
そのうらぶらむとて言ふべしよんか
七五三ぬいぬいとて言ふべしよんか
とあらぬとて言ふべしよんか
著者うらぶらむとて言ふべしよんか
ふ文字うらぶらむとて言ふべしよんか
一家のうらぶらむとて言ふべしよんか
いふとて言ふべしよんか

あきぞねをぬのこころとてふまでおよぶき本傳ハハ
犬士傳そのよハ言下おふぢふ系ワキシこそんまは
ぢこそろちりふめく犬士里えの犬士よてぐんさう
ころちのまつせまぢめ筆あらふとあるとあらし
そのよハ姓の何用あらんや義成ハ又つし犬士ハ姓メ
あるちりハ其主ハ姓をわぢハおうとぢぢぢ又ぢぢぢ
るこそろハ勢ぞろハ十二月廿八日ころハ筆あらふと
あるとあら犬士よつう会のころぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
有ハまぢぢぢぢぢぢぢぢの名の下ちる主たるのぢぢ
いひぢぢぢぢぢぢぢ犬士のとぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あめこそろくとして終るぬまで今ニ色ハよろひなり
とてふよあづてにまほくハよぢぢぢ文面外
ハありとれてありあきふくハ ○ 氏元負行そのよ
ニ老こそろハとてて滝田よつめぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
たのぢぢぢぢぢとそめとふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
とハまことハ絶れぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢハのぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
これよてハみふハ三士の軍よとぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢハ両老らうきんぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
かるハおよぶぢぢハ老士ハいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

おとくと老やうたよざいとうしげんよはちま
ちりつらびうらみ三士とかえゆるちげんのさき
又こぬる氏え負行とせとちうづらげんありちひ
のうらうくうづらまらごりごでちんちやうくさぬ
ものぢあまのよせむむとだぬるまじあがもが
ちいあふふのけんじ○九三四郎がぶらうとあま
こりつとあふまうくおてあむらものうぶあち八七又
しぎよありつひの五人のちんせんせいしそめそめくの役
ころころのぬあふむむむむむむむむむむむむむむむむむ
かーまろころころころころころころころころころころころころ

おとまくぢらちちとんふくううのまめうのやんと
いんも今さうおぢうほげんのかんくしん戦威の
とー九三にがさいぐんいづれとこところかちとねが
ぎあうして兵糧やこあち八がのろーやくといにむー
りれど九三に九三にけ役し又そのめいぶつこのまじ
それほぶふくめをもせぬるもあつらんころくむ
おあささーちまらうがさしんの引まこといあふの
よはちころぐんちれむ九三にのろのまよめいふ
死ころろーてまらうちまらうむむむむむむむむむむむむむむむむむ
はさろやへはほふくあふむむむむむむむむむむむむむむむむむ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. A red circle is visible around a character in the second line. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and fills most of the page.

たふとるよあてに女年とまらけりまづりくも
いんまゆりけいのしるる一があらんぞやま
一とたにしやまよあまのいんた○養成ま
かまの古今のろんまなまのたあたらんま
たらんらんまのいんまのまのまのまの
いんまのまのまのまのまのまのまの
がまのまのまのまのまのまのまの
あまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

にづくもて信乃現ハよこしあぐそめいあつ
してまのまのまのまのまのまの
信乃よあらんぞやまのまのまの
あまのまのまのまのまのまの
○まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

百五十八回

まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'L'. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'L'. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter 'S' and contains several lines of text. A red circle is visible around a specific character in the lower portion of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter 'S' and contains several lines of text. A red circle is visible around a specific character in the lower portion of the page.

○陸軍の勢大なる義通は前々此の如く
なれば後々も此の如くはなりと云ふに
無事かと思ふに然らずしてはならぬ
水軍の勢大なる義通は前々此の如く
なれば後々も此の如くはなりと云ふに
無事かと思ふに然らずしてはならぬ

○陸軍の勢大なる義通は前々此の如く
なれば後々も此の如くはなりと云ふに
無事かと思ふに然らずしてはならぬ

あつまひあつてあひゆくいふる一くあいらしう
 りんそのあまげゆをされてひくらにゆきまはるるまみ本
 あいもたもあつてあつてあつてひそくまゆひつと
 ハ犬士の君ら里え父子孫ともみふそらふて名おとまき
 もちらん之義通はまぶ十五その智仁勇ハ八犬後傳一
 あぶくと人むふあつてあつて本傳ハそのあつ
 ことともあまあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 花のなくと十あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ころあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 らん城樓のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

一花をいつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ことあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 一方のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ぞであつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 の智ら仁ら勇らりの後傳をり上げてあつてあつてあつて
 あぶ一花あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 又はあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 うのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 さんろくさつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

○洲崎明神

るふまてやちをいふと本陣のまじりて
有べきやう白鳩のまじりていふこと
ゆゑ王のいふことまじりていふこと
何れもまじりていふことまじりて
かのみぎりまじりていふことまじりて
くまじりていふことまじりていふこと
さるのくまじりていふことまじりて
中へみぢやちまじりていふことまじりて
やちまじりていふことまじりていふこと
ぬこ本陣のくまじりていふことまじりて

あつていふことまじりていふこと
たあひびいふことまじりていふこと
まのふとちまじりていふことまじりて
合をいふことまじりていふことまじりて
ぬこぬこ○十二月廿日大角より人をかくして
たうりいふことまじりていふことまじりて
んて負任おとす千代丸のあひくあつて
くけあひせんたふちのあひくあつて
まろとあつていふことまじりていふこと
いよまをあつていふことまじりて○てまの

11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter 'H' and continues with several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter 'H' and continues with several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

進むか ^二 進む ^三 進む ^四 進む ^五 進む ^六 進む ^七 進む ^八 進む ^九 進む ^十 進む
 あゆむか ^二 あゆむ ^三 あゆむ ^四 あゆむ ^五 あゆむ ^六 あゆむ ^七 あゆむ ^八 あゆむ ^九 あゆむ ^十 あゆむ
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 かく ^二 かく ^三 かく ^四 かく ^五 かく ^六 かく ^七 かく ^八 かく ^九 かく ^十 かく
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又

進むか ^二 進む ^三 進む ^四 進む ^五 進む ^六 進む ^七 進む ^八 進む ^九 進む ^十 進む
 あゆむか ^二 あゆむ ^三 あゆむ ^四 あゆむ ^五 あゆむ ^六 あゆむ ^七 あゆむ ^八 あゆむ ^九 あゆむ ^十 あゆむ
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 かく ^二 かく ^三 かく ^四 かく ^五 かく ^六 かく ^七 かく ^八 かく ^九 かく ^十 かく
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又
 又 ^二 又 ^三 又 ^四 又 ^五 又 ^六 又 ^七 又 ^八 又 ^九 又 ^十 又

文をひきかゝりてはむかしいへばいへばいへばいへばいへば
よすあやうもたらふべしむすましのむすましのむすましの
このいかにきききききききききききききききききききき
てんぐの一人娘がうらやましく
やんやんやんやんやんやんやんやんやんやんやんやんやんやん

○助友のきこひうらやましく
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
きこひうらやましくむすましのむすましのむすましの
きこひうらやましくむすましのむすましのむすましの

しむすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
○このむすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの
むすましのむすましのむすましのむすましのむすましの

ありきればか—とよに三人よきこと目につくことなほ
 らんのかるふりばせしむべきよしとせむにふまへのさうく
 ぐみめやうまつこと—とよきことおもひまらむおへんのぢ
 大いさのさうくへおてもてかくしつぼえらぬよの—して
 つらとんと—とよきこと—とよきことせんまゆ—とんと
 ちるつまげりまらりかんよくけりかく二人よむも
 あぢもをよむぬや—とよきこと—とよきこと二人と
 せぬはちよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきことぢ
 大名のあらつらよもおもせめてたれと—とよきこと—とよきこと
 よか—とよきこと—とよきことの大場のよんじゆ千代丸とまら

くらきことよみせむたふにぢよ—とよきこと—とよきこと
 ちよのたくま—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 だら—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 らぬ—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 せよおとよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 あらぬ—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 んのえら—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 しよよら—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 せで—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと
 とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと—とよきこと

おかしきことありしを徳として
大おのいづしものしるしを
のびたがけのさくらがさく
ほめやうのいざんがけの
かたしよとていづしものしるし
きよのぶたの許中あはれし
あつらひのいづしものしるし
よあつらひのいづしものしるし
おかしきことありしを徳として

おかしきことありしを徳として
きよのぶたの許中あはれし
あつらひのいづしものしるし
よあつらひのいづしものしるし
おかしきことありしを徳として
大おのいづしものしるし
のびたがけのさくらがさく
ほめやうのいざんがけの
かたしよとていづしものしるし
きよのぶたの許中あはれし
あつらひのいづしものしるし
よあつらひのいづしものしるし
おかしきことありしを徳として

ひくしりてはたがへるる事なればこそ昔も今は目する
る事なき事なればなればこそ今も昔もなればこそ
用はあつてはなればなればこそ今も昔もなればこそ
そとにあらばなればこそ今も昔もなればこそ
あつてはなればこそ今も昔もなればこそ
らうしやうしやうしやうしやうしやうしやうしやう
くしやうしやうしやうしやうしやうしやうしやう
九郎がひはなればこそ今も昔もなればこそ
まゝにあつてはなればこそ今も昔もなればこそ
筆よにこそなればこそ今も昔もなればこそ

あまよふはなればこそ今も昔もなればこそ
なつてはなればこそ今も昔もなればこそ
りやうしやうしやうしやうしやうしやうしやう
よはなればこそ今も昔もなればこそ
やうしやうしやうしやうしやうしやうしやう
へいしやうしやうしやうしやうしやうしやう
あつてはなればこそ今も昔もなればこそ
○あつてはなればこそ今も昔もなればこそ
のひやうしやうしやうしやうしやうしやうしやう
あまよふはなればこそ今も昔もなればこそ
○昔も今はなればこそ今も昔もなればこそ

Handwritten text in a cursive script, written vertically on the right page of the manuscript. The text includes several lines of characters and a red circle symbol.

Handwritten text in a cursive script, written vertically on the left page of the manuscript. The text consists of several lines of characters.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a single column on the right page of the open book. It begins with a large initial character, possibly 'M' or 'N', followed by several lines of dense, flowing characters. A red circle is visible around a specific character in the middle of the text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a single column on the left page of the open book. It begins with a large initial character, possibly 'M' or 'N', followed by several lines of dense, flowing characters. A red circle is visible around a specific character in the middle of the text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

又たうもが世人をちのたくましとせししうりせんぞ
るとまう世人にせむびのせんそくとまふといとてち
うあんよくうまう地をきくせんともうがほんぼんし
西くえいしとたきけせんうくとさげむのんもあじ
又千代丸とほぐらひの里えのおんをわぶべきよーもあ
らぞあひあうらその功をそりてちあうんをいんあ
ん他一人智もあひとそむびのいんあそのうちの里え
一あらんうのんそくもあふまむんで定正より里え
よよりてほんぼんそあんのいんあもあひめとそ
だよりうりや一里えあふとて定正よりびまうかひい

あふ定正のちめよゆさふーちあうんをいんとよま
てあふーしそとせくんとよえうらひのいんあ
まいよまふよあひあひとて定正よもあうらんあひま
えよハもこのれうらひのいんあうちのあふてあうち
うとぞいんあうらひのいんあまよまひのいんあその利を
いんとたうとるの智とあつめ士のあうんうらや一
ちいまるのいんあひのいんあくまーまいんあうらよ
らふべー千代丸ハうらそくうらやうらや一仁意よーん
ふくーやうらて功をそとそあんとむんいんとあふ
wwwがけりて事と事いんあうらやうらよらよら

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. A red circle is visible around a specific character in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. A red circle is visible around a specific character in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a small red circle on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a small red circle on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a red circle containing a symbol, possibly a decorative initial or a specific marker. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a red circle containing a symbol, possibly a decorative initial or a specific marker. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The first line begins with a large initial letter, possibly 'N'. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The first line begins with a large initial letter, possibly 'N'. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of the open book. The script is dense and appears to be a form of early modern European cursive, possibly from the 16th or 17th century. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of the open book. The script is dense and appears to be a form of early modern European cursive, possibly from the 16th or 17th century. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

義死勇まといふまへくはなれよくその花もあらん
だうらんせむいふまへくはなれよくその花もあらん
めいほもいふまへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん
しるまへくはなれよくその花もあらん
二人といふまへくはなれよくその花もあらん
てもいふまへくはなれよくその花もあらん
なるの功もいふまへくはなれよくその花もあらん
はあうまへくはなれよくその花もあらん
るまへくはなれよくその花もあらん

ゆゑそれまへくはなれよくその花もあらん
士のころもいふまへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん
せむいふまへくはなれよくその花もあらん
まへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん
あうまへくはなれよくその花もあらん

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The lines are roughly parallel, with some variations in spacing and alignment. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The lines are roughly parallel, with some variations in spacing and alignment. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of an open book. It begins with a large initial letter 'P' and contains several lines of text, including a circled 'O' in the middle. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of an open book. It begins with a large initial letter 'P' and contains several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

ちよもやなげんよー
 庄今ひげー
 まぞー
 あまのち○こー
 ちよもやなげんよー
 まぞー
 あまのち○こー

ちよもやなげんよー
 庄今ひげー
 まぞー
 あまのち○こー
 ちよもやなげんよー
 まぞー
 あまのち○こー

17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large, stylized character that resembles '神' (Shin) and includes several lines of dense, flowing characters. The script is characteristic of early modern Japanese or Chinese cursive.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It features a prominent red circle (O) in the middle of the text, which may be a decorative element or a specific marker. The text is written in a dark ink on aged paper, showing signs of wear and discoloration.

あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 いたしあひまほむす川にけつとあけしつて
 ほりあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 又いふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 又いふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ

又いふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 又いふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 又いふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 又いふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ
 あつたよめは如きびあやもふしつてさへおぼえ
 がいふあひのさめびあやもふしつてさへおぼえ

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The lines are roughly parallel and fill most of the page's width.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands. The lines are roughly parallel and fill most of the page's width.

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a poem or prose. The text is arranged in vertical columns from right to left. The characters are dense and fluid, characteristic of the 'sōsho' (草書) style.

後自評 二丁六
五行 まる三十五下の巻 三十三丁
かいらん

か二 いんらん 毛鶴山 いんらん 毛聲耳山と

かふ いんらん

又後自評 四丁六
一行 平山 いんらん 冷葛 いんらん 冷山 いんらん 平也 いんらん

あり

又かふ いんらん 七丁九
七行 猪悟能 ちよごのう のけ いんらん むん いんらん

あ いんらん むん いんらん 一 いんらん あり いんらん むん いんらん け いんらん むん いんらん

あ いんらん むん いんらん 一 いんらん あり いんらん むん いんらん け いんらん むん いんらん

Handwritten marks or characters at the bottom of the page, possibly indicating page numbers or specific annotations.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on a page with horizontal lines. The text is written in a dark ink and appears to be a formal or official communication.

Additional handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date, written in the same cursive script.

Fragment of handwritten text from the reverse side of the page, showing the continuation of the cursive script.

Handwritten characters or a small mark located in the lower right quadrant of the page.

Handwritten marks or characters located in the lower left quadrant of the page, possibly a signature or initials.



